



## ゼミ

3年次からは1・2年次で培った知識を基盤に、それぞれ自分の方向性を定めます。同時にゼミもスタート、より専門性の高い分野を追究していくことになります。



歴史を学んで人間を知り、「市民」としての基礎力を身につけてほしい

ゼミ紹介

### 唐橋 文 教授

西洋史学専攻  
専門分野：シュメール語、古代メソポタミアの文化と歴史

私の専門は古代メソポタミアですが、ゼミ生の研究範囲はそれに限りません。3年生は史料や学術論文をもとに各人が発表を行い、全員で議論しながらゼミ論文を書き上げます。4年生は卒業論文に取り組み、私と1対1で議論を重ねて仕上げます。こうしたゼミ活動を通じて、さまざまな文献を読み込み、理解して自分なりの意見を人に分かりやすく伝えるという、社会人として必要な基礎力を身につけることができます。古代史を学ぶことは、それ自体とても楽しく、しかも人間とその営みの根本的な理解へとつながります。ゼミの議論や論文執筆で鍛えられた人間に対する深い洞察力と論理的思考力、発信力は、将来どんな仕事に就いても役立つでしょう。ゼミ生の興味や関心は私の専門を超えており、いつも刺激を受け、一緒に勉強しています。皆さんがここで得た知見を活かして幸せな人生を歩んでほしいと、心から願っています。

### 井口 七海

西洋史学専攻3年  
純心女子高等学校(長崎県)出身  
研究テーマ：古代メソポタミアの教育を受けた王について

唐橋ゼミではゼミ生それぞれが異なった時代や文化について意欲的に研究しています。自分とは異なった視点の考え方や意見を聞くことができ、視野が広がったことが一番の魅力です。文献を読むほど新しい発見があり、自分の考えを軌道修正するのですが、知りたいことに対してどのようにアプローチするかを学んだことは、ゼミで得た大きな成果だと実感しています。

### 履修生の声



### 藤田 真司

西洋史学専攻3年  
青森県立八戸高等学校出身  
研究テーマ：16世紀南米「インカの反乱」期における先住民自己表象

他のゼミ生から質問や意見を受けることで、自分の研究の弱点を知り、さらに研究を深められることがゼミの魅力です。当時の日記や公文書といった一次資料のほか、他者の専攻研究を参考にしつつ自分の意見をまとめることは難しいですが、ゼミ論文に取り組んだことで、少しずつ書く力が身につき、自分自身でも成長を感じています。